

分の内側の世界と外側の世界というところで話を進めていければと思います。私たちは外側の世界での生き方というところに目が向かいがちになります。もちろん、自分が勉強して得たことを実施に行動として実行し、その実行した行動が外側の世界にどのように働きかけ、外側の世界に生きる人々がその働きかけをどう受け取るかは大切です。しかし、それと同時に勉強をして得たことが自分自身にどう働きかけていくのかもとても大切です。勉強すると世界が変わるというのは、自分の内側の世界が大きく変わるということです。勉強をしなければ自分の内側の世界が変わりません。変わらないから外側の世界に何も働きかけがないのです。

2.副産物を勉強の理由とすることはできません。勉強で何かが変わることが大きいのです。

勉強をしなければ何も変わらないということは、逆に考えれば、勉強をすれば何かが変わるということになります。その変化は自分の外側だけではなく、内側にも及びます。ここで、勉強をする自分の外側の世界でどんな変化が起こるか考えてみましょう。

ものすごく単純なところで、成績と結びつく、他者からの評価が変わる、進学や就職に有利になる、(勉強の内容を広くとらえれば)仕事ができるようなる、給料に反映される…。こんなところなのではないでしょうか。単純な思考で考えてみました。他にもいろいろあるのではと思うのですが、これぐらいにしてみましょう。ここで挙げたことがらというのはどうも勉強をしてすぐに現れる変化とは到底思えないのです。というより、むしろこれらのことは勉強をして得た副産物のようなものかと思えてくるのです。大人は子供にしばしば「勉強しなさい、そうすれば…」と言っている内容というのは実は勉強をして得られる副産物であり、副産物であるからそれに対して子供たちは感覚的に期待を持っていないのではないかと思うのです。つまり、副産物は子供たちが勉強するためのモチベーションにはならないということです。

少し視点を変えてみましょう。今日とは全く違う社会構造であった時代としての前近代のことを想像してみましよう。あの時代の人々は何を求めて勉強をしたのでしょうか、そして、勉強をしてどうなったのでしょうか。あの時代の人々の方が今の時代の人々より勉強を渴望していたのです。それはなぜでしょうか。これはあくまで私個人の考えですが、おそらく世界を変えたかかったのではなかったのでしょうか。この世界というのは自分の外にある世界と自分の内にある世界の両方です。偉人たちの功績は外の世界を変えたことに対する功績であり、それを人々は評価したのです。しかし、彼らは評価という副産物を求めて勉強をしていたわけではありません。彼はそこに満足をしていたわけではないのです。彼らにとっての満足は自分の内の世界の変化にあったのではないのでしょうか。これはなにも偉人だけのことではないのです。多くの伝統的、社会的制限がある状況下にある人々ほど勉強を渴望するのは、変わりたい、変えたいという願望が強いからではないのでしょうか。

こんな話を聞いたことがあります。ノートや教科書、学習用具が十分に整っている日本の子供たちよりも、ノートも教科書もないアフリカの子供たちの方が勉強したいと本当に望んでいるのです。紛争の絶えない地域の子供たちが何をしたいのかと尋ねると勉強をしたいと答えているのだそうです。彼らはなぜそこまで勉強をしたいと思うのでしょうか。おそらく変化への願望ではないのでしょうか。何かを変えたいと強く思っているからこそ勉強をしたいのではないのでしょうか。

ここまでいろいろ考えてみましたが、子供に伝えてあげたいことがなんとなく見えてきません。大人は子供たちに「勉強をすると何かが変わるよ。それは周りの環境だけではなく、自分自身も変えてくれるものだよ。」と伝えてあげないといけないように思うのです。何かに不満があるのなら、実は自分から変えないといけません。自分を変えるきっかけを勉強は提供してくれるのです。勉強をして、子供がどんどん変わっていく。子供たちのその変化を大人は成長というのではないのでしょうか。

最後になりますが、勉強をしない子供は勉強を嫌がっているのでしょうか。確かに面倒くさいというところから嫌がっているというのはあるでしょう。しかし、それだけではなく、勉強することをためらっていると受け取ることができないのでしょうか。勉強することをためらう必要はないでしょう。勉強する歩みを止めてしまえば、同じ景色しか見られないのです。どんどん勉強の歩みを進めてみましょう。そうすれば、景色がどんどん変わってきます。そんな話をお子さんにしてあげてみてください。ただ、勉強をしなさいと言いつけるよりもお子さんに変化を与えるきっかけになることでしょう。

文責：めがね先生

★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★10月のおめでとう★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★

1年1年の成長を自分は分からなくても人は見えています。お誕生日おめでとうございます。

☆拓夢くん

お誕生日は子育てをしてくださるお父さん、お母さんへ感謝する日でもあります。お子さんの成長を喜ぶとともに、感謝申し上げます。

★★10月の予定★★

①10月8日(月・祝)授業について

小春学院カレンダー通り、両日ともに授業日となります。振替授業も行いますので、調整をご希望の場合には担当までご連絡ください。

②中学生学力テスト

今月は5教科受験となります。範囲は別紙にてご確認ください。今月の学力テスト受験最終日は10月27日(土)です。事前課題プリントの確認をしっかりと行ってテストに挑戦しましょう。

③中学3年生北辰テスト・中学2年生北辰テスト

11月4日(日)は中学3年生の北辰テスト[第6回]の実施日です。十分に勉強してテストに臨みましょう。北辰テスト[第7回]は12月2日(日)です。受付は11月8日(木)～19日(月)です。ぜひテストを活用して、勉強の指針にしていきましょう。

12月2日(日)には中学2年生の第2回北辰テストが実施されます。受付は上記期間と同様です。ぜひ御検討ください。

★★今月の「この一問!」★★

今月は理科です。チャレンジしてみてください。答えは教室で!

(問題)人間の生活は多くの生物の力を借りて成り立っています。

1. ヨーグルトは、乳酸菌がつくる乳酸が、牛乳中のある成分を変化させることによって作られています。乳酸は、牛乳中のどの成分を変化させているのか次より1つ選び、記号で答えなさい。
ア カルシウム イ 水 ウ タンパク質 エ 糖 オ 脂肪
2. パンをつくる時には、イースト(酵母菌)を小麦粉や塩、砂糖などと混ぜて生地をつくります。この生地を温かいところにしばらくおいておくと、生地がふんわりとふくらみます。生地がふくらむのは、イーストがある気体を放出するからですが、この気体はヒトをふくむ多くの生物が放出している気体です。
 - ① この気体が放出されるのは、イーストが何というはたらきをしているからですか。そのはたらきの名前を答えなさい。
 - ② この気体が何であるかを調べるために使うものを次より1つ選び、記号で答えなさい。
ア ヨウ素液 イ 食塩水 ウ 塩酸 エ 石灰水
 - ③ この気体は地球温暖化の原因物質の1つと考えられています。地球温暖化によって起こると考えられることとして誤っているものを次より1つ選び、記号で答えなさい。
ア 熱帯でみられる感染症の発生地域が広がる。
イ 砂漠化する地域が広がる。
ウ 北極や南極にすむ生物の分布地域が広がる。
エ 魚の分布が変化し、漁場が移動する。
オ サンゴ礁の分布地域が広がる。
3. 最近、地球温暖化の防止につながる新しい燃料として、サトウキビやトウモロコシなどの植物からつくられる燃料が注目を集めています。この燃料の名前として正しいものを次より1つ選び、記号で答えなさい。
ア バイオエタノール イ メタンハイドレート
ウ レアアース エ プラントオパール

(某私立女子中学校の問題より)

★★大人のための「この一冊！」★★

ベルンハルト M・シュミッド「世界の家」(ピエ・ブックス 2006年)

手抜きと思われるかもしれませんが、今回紹介する本は写真集です。タイトルの通り、世界の様々な家(住居)の写真です。

この本との出会いは春日部駅東口から徒歩数分のところにある小さなカフェでした。ちょっと立ち寄ったカフェでコーヒーを飲みながらこの本を読んでいると、世界には本当にたくさんの家があり、それぞれの地域の持つ風景の中に溶け込んでいるのだなと思い、夢中になって読んでしまいました。

「実際に数えた訳ではありませんが、言語の数より多くの異なった様式の家があると私には思えません。故郷のドイツや私が良く知っている他の国々に訪れる場合、単にその場所の伝統的な家々を見ることにより、その地域がどのような性格を持っているかすぐに把握できます。」

伝統的な住居というのは自然環境と社会環境に合わせて作られていました。日本の現代住居は伝統的な様式からは距離を置くようになってしまいましたが、一軒一軒は違います。「言語の数より多くの異なった様式の家」とは言っていますが、「言語の数より多くの家庭」と置き換えられるように思われます。住居はまさにご家庭の顔です。

「家は顔のようなもので、その地域の性格や住人の気持ちを表しています。そして顔を見るときのように、私たちはそれぞれを直感的に識別しようとするのです。」

一軒家でも、集合住宅でも、家はまさにそのご家庭の顔なのです。中国の言い回しに「修身、齐家、治国、平天下」(身を修め、家を斉(ととの)え、国を治め、天下を平(たいら)ぐ)という一句があります。「齐家=家を斉える」ことの大切さを知ることができる言葉です。家が整っているか、写真にしてみると面白いかもしれませんね。塾である小春学院も一度写真におさめてみたいと思います。写真にすると本当にすべてが写しだされます。ある意味怖いのですが、皆さんのご家庭でも年に一度、それが難しいようでしたら数年に一度、家を写真にとってみませんか。その時、ご家族の集合写真なんかもとってみませんか。家とご家庭を振り返るためのいいきっかけになりそうな気がします。(まず、小春学院から始めてみましょうか…)

なお、この本の続編「新 世界の家」(パイ インターナショナル)が2011年に発行されています。一緒にご覧になるといいかもしれません。こういう世界の姿が分かる本があると、お子様への多文化理解の一助になります。学びという側面からもぜひご一読してみたいはいかがでしょうか。

【編集後記】

秋がやってきました。夏が終わったのですから当然です。秋の夜長。これから皆さんはどのようなお過ごしになるのでしょうか。私はやはり読書をしたところです。そして、「IDOBATA 会議」で紹介していきたいものです。…そろそろ「今月のこの一冊」のコーナーで取り上げる本のストックが切れてきました…。もし、皆さんの中でご推奨の書籍がございましたら、ぜひお知らせください。すぐに読みます。来月号はどうでしょうか…。

皆様からのお声も集めております。お寄せいただいたお声は「IDOBATA 会議」でどんどん採用していきます。みなさんと一緒に考えることこそがこの紙面の目的なのです。

メッセージお待ちしております。

